

# 患者必携について

## がん対策推進基本計画

分野別施策(3)がん医療に関する相談支援及び情報提供  
(取り組むべき施策)

- インターネットの利用の有無に関わらず、得られる情報に差が生じないようにする必要があることから、がんに関する情報を掲載したパンフレットやがん患者が必要な情報を取りまとめた患者必携を作成し、拠点病院等がん診療を行っている医療機関に提供していく。

(個別目標)

- 当該パンフレットや、がんの種類による特性等も踏まえた患者必携等に含まれる情報をすべてのがん患者及びその家族が入手できるようにすることを目標とする。

国立がん研究センターがん情報サービス ganjoho.jp

## 患者必携普及に向けた活動(1)

平成22年

6月17日 患者必携(完成版)PDFをがん情報サービスに掲載

6月18日 患者必携「がんになったら手にとるガイド」をがん情報サービス携帯版に掲載

9月15日 患者必携サポートセンター(コールセンター)開設  
0570-02-3410 平日(土日祝日を除く)の10時~15時

患者必携書籍版の準備

11月 患者必携事務局(活用・普及展開支援窓口)開設  
書籍発刊にむけた作業



<http://ganjoho.jp/m>



〇〇がんの療養情報 16がん種



がんになったら手にとるガイド



わたしの療養手帳(別冊)



患者さんのしおり  
(「がんになったら手にとるガイド」概要版)



ちらし  
njoho.jp

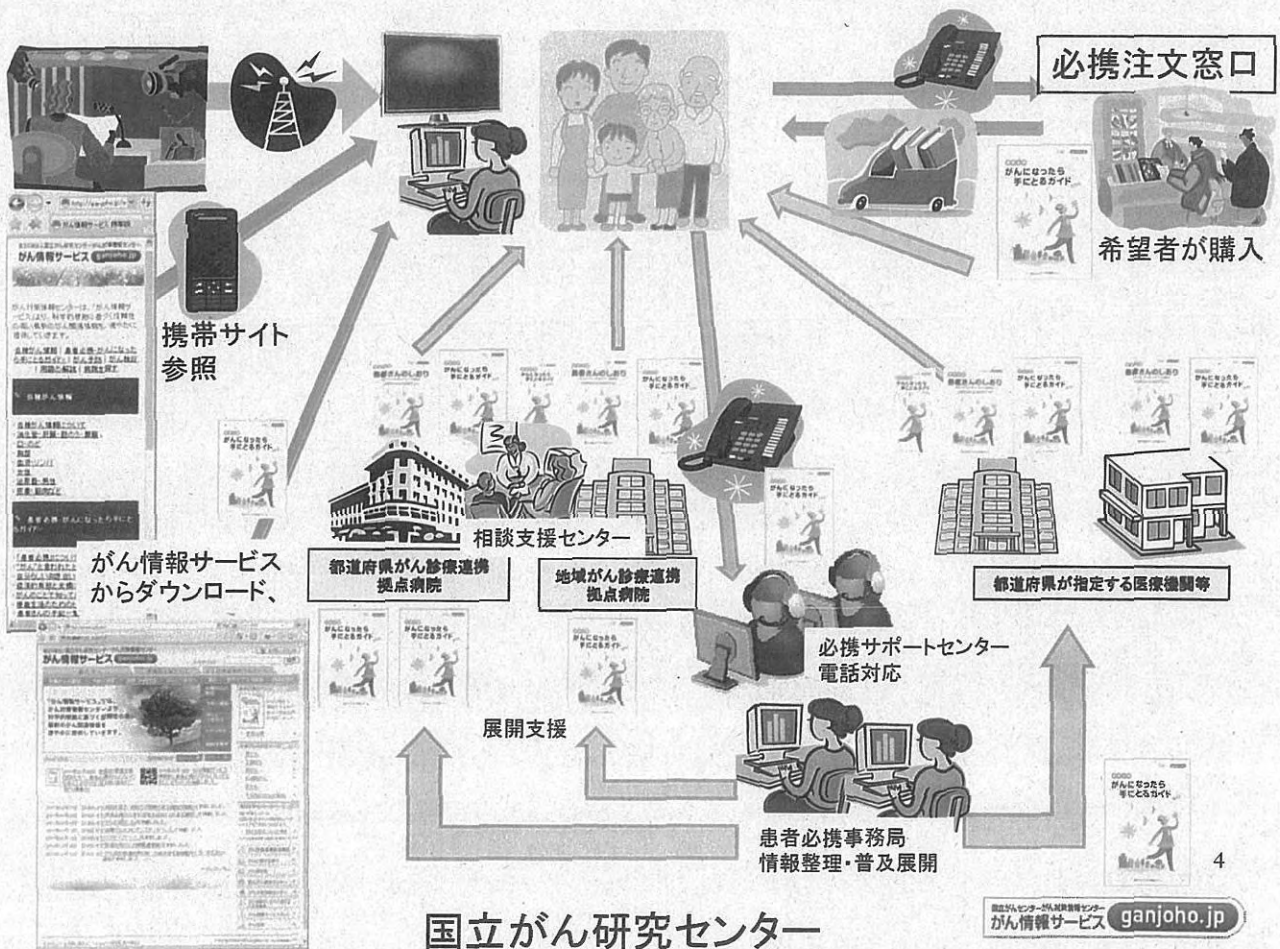
# 患者必携普及に向けた活動(2)平成23年

- 1月下旬 がん診療連携拠点病院等に患者必携「がんになったら手にとるガイド」見本版を配布、FAQページ開設
- 2月下旬 がん診療連携拠点病院、都道府県に患者必携「患者さんのしおり」、ちらし等を配布
- 3月上旬 全国の書店(700店)に配本。1万5千店で取り寄せ可
- 3月上旬 保健所(660カ所)に送付
- 3月中旬 がん情報サービスPDF更新、電子出版リリース
- 3月下旬 都道府県指定の医療機関等(350箇所)に見本版、しおり等を配布
- 3月下旬 患者会・患者支援団体の方へ見本版提供(250団体)

※現在募集中(詳細はがん情報サービスで)



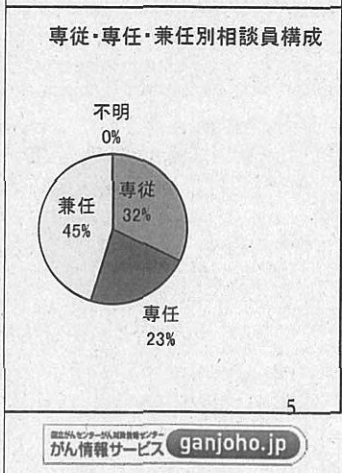
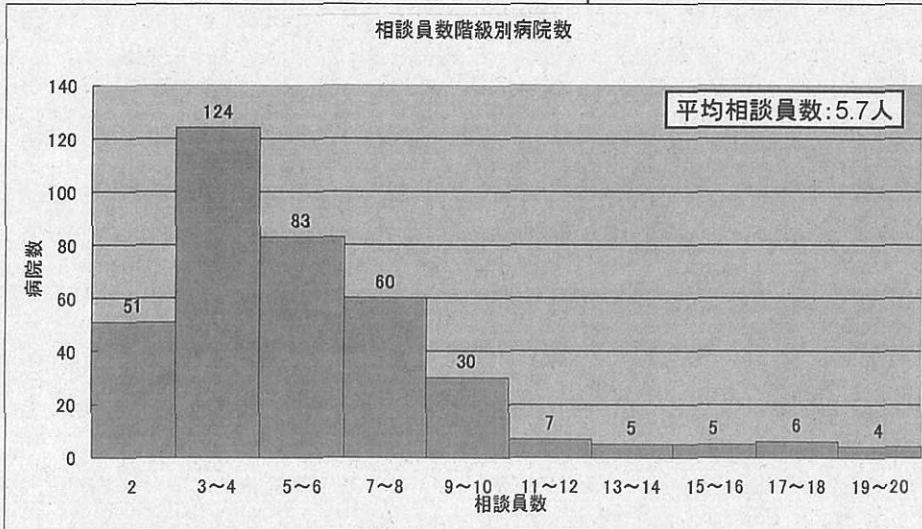
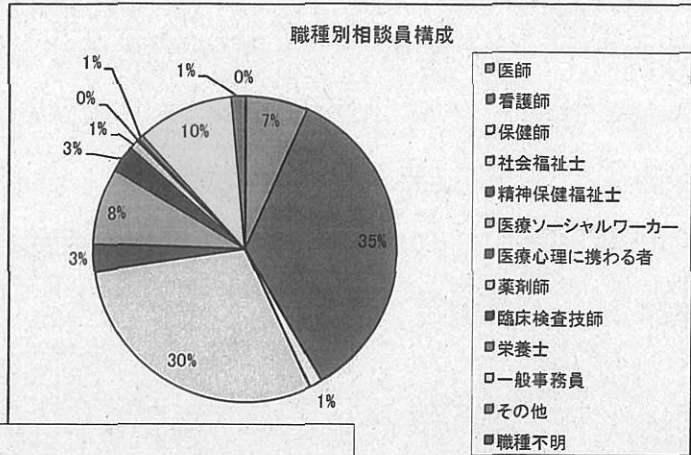
配布数 しおり 83万部  
ガイド見本版 8万部  
ちらし 120万部





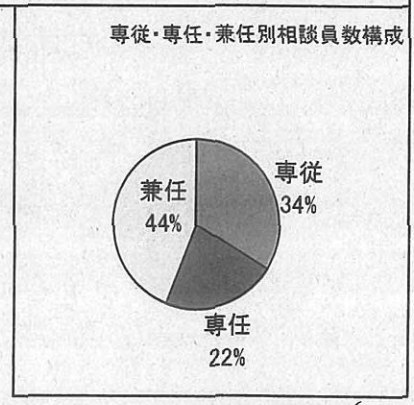
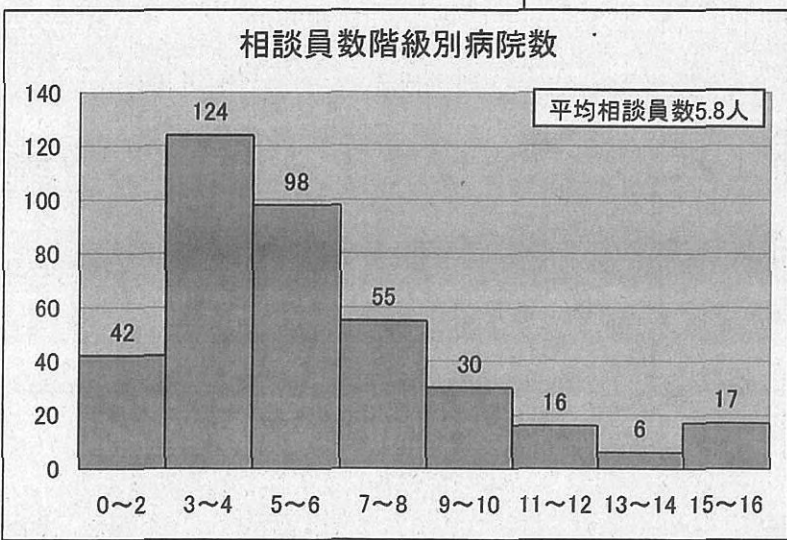
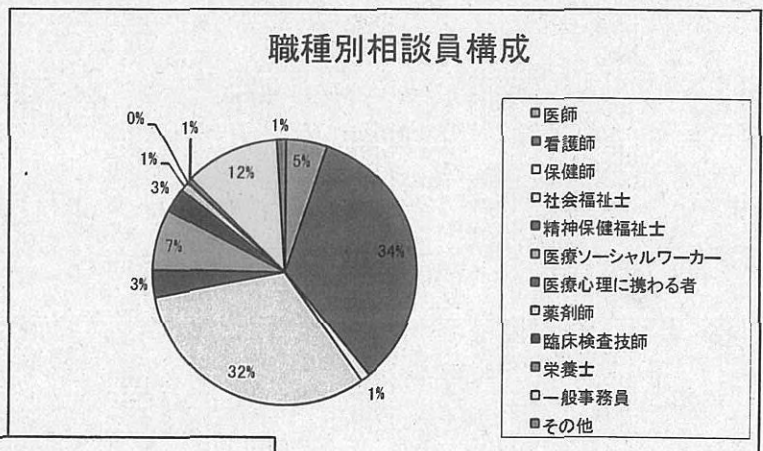
# 相談支援センター の体制

平成21年度現況報告書  
(H21年9月)より



# 相談支援センター の体制

平成22年度現況報告書  
(平成22年9月)速報値



相談支援センターの実績 H21年現況報告書より  
平成21年6月～7月(44日間)の相談件数 377施設

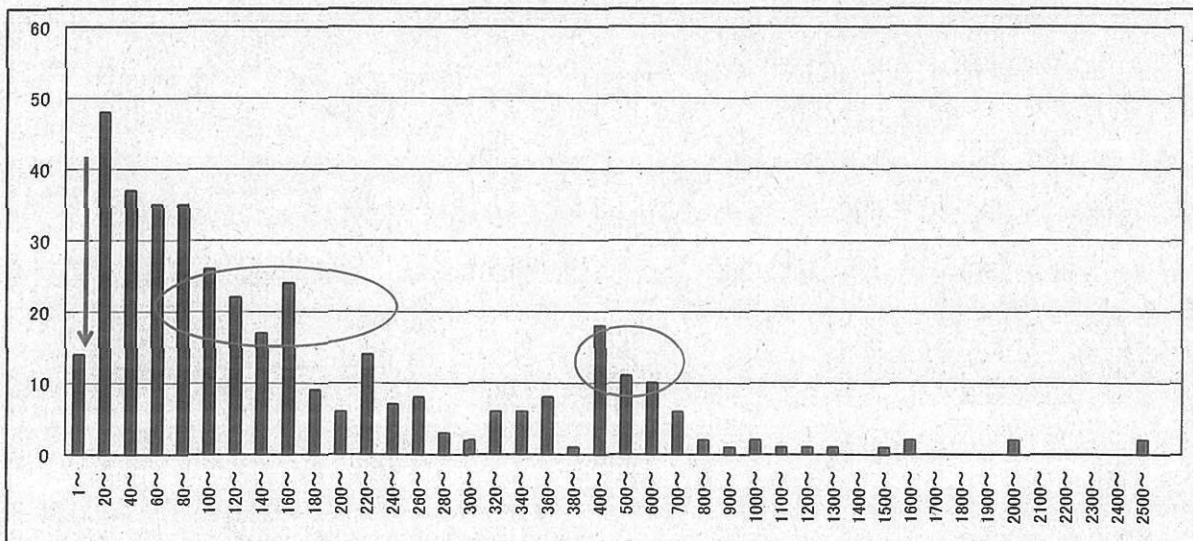
総数 76,370件 平均 203.7件 中間値 99件  
1日あたり 平均 4.6件 中間値 2.3件



7

相談支援センターの実績 H22年現況報告書より速報値  
平成22年6月～7月(43日間)の相談件数 388施設

総数 88,347件 平均 227.6件 中間値 119件  
1日あたり 平均 5.3件 中間値 2.8件



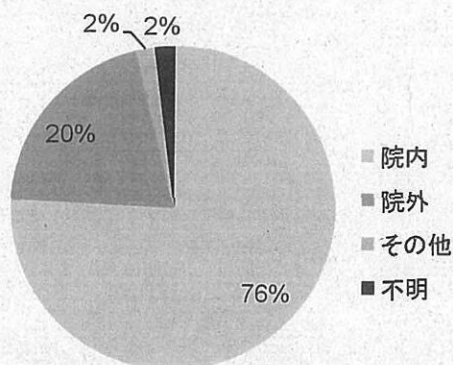
8



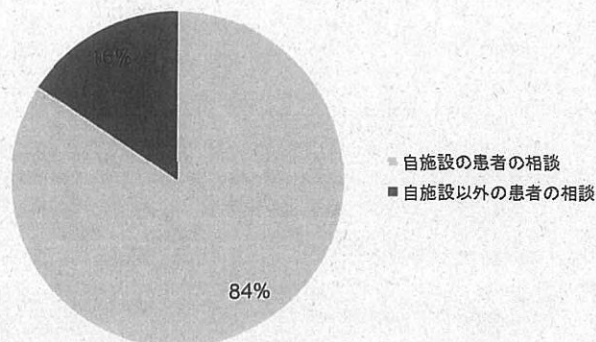
## 相談者区分

H21年度がん医療水準の均てん化を  
目的とした医療水準調査事業報告書  
(財)がん集学的治療財団

H22年度現況報告書(速報値)



N=7,797  
H22年3月1日～5日



N=88,307  
H22年6月～7月



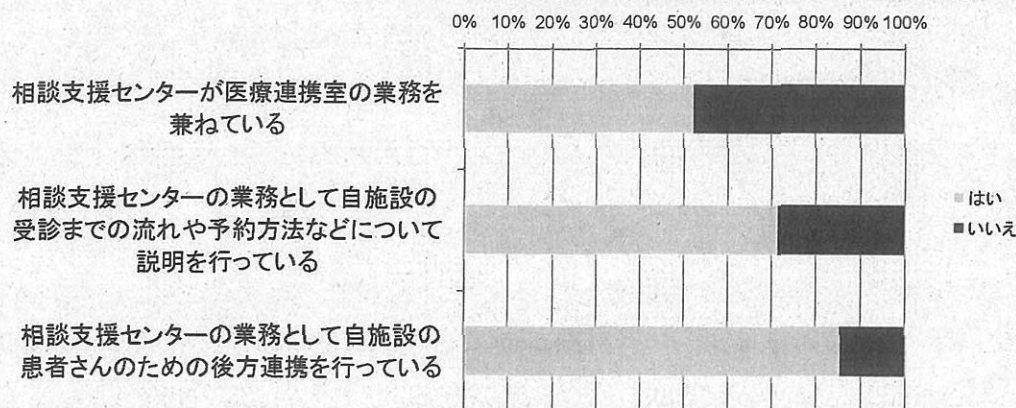
1病院の相談窓口から脱却  
できていない。

9

がんセンターがん医療連携センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

## 相談支援センターVS.医療連携室

H22年現況報告書別紙32より速報値



## 相談支援センター<<<医療連携室

∴ 連携業務は病院経営に直接的メリットあり  
相談支援業務は、指定要件を満たせば...  
がん治療連携計画策定料の導入でさらに加速



相談支援業務充実のインセンティブの創設が必要

10

ganjoho.jp

## 相談員研修カリキュラム

### 相談支援センター相談員基礎研修会(1) 6時間

- がん相談支援業務に携わる上で、押さえておくべきがん医療の基本事項
- 相談支援のプロセス、臨床腫瘍学、セルフヘルプグループ、緩和医療学、精神腫瘍学

### 相談支援センター相談員基礎研修会(2) 12時間

- 各論
- がん予防と検診、支持療法、アスベスト関連疾患とその補償について、診療ガイドライン、エビデンスとは、臨床試験、肺がん・乳がん・胃がん・肝がん・大腸がん・血液がん

### 相談支援センター相談員基礎研修会(3) 15時間

- 相談支援業務におけるプロセスやポイント(グループワーク)
- がん専門相談員の役割、コミュニケーションスキル、相談支援のプロセス、がんを抱えて暮らす人の理解、家族ががんになったとき、他の専門職や他機関等との連携・協働、患者団体等による当事者活動、事例を用いたグループワーク

11

## 研修修了者の分布状況

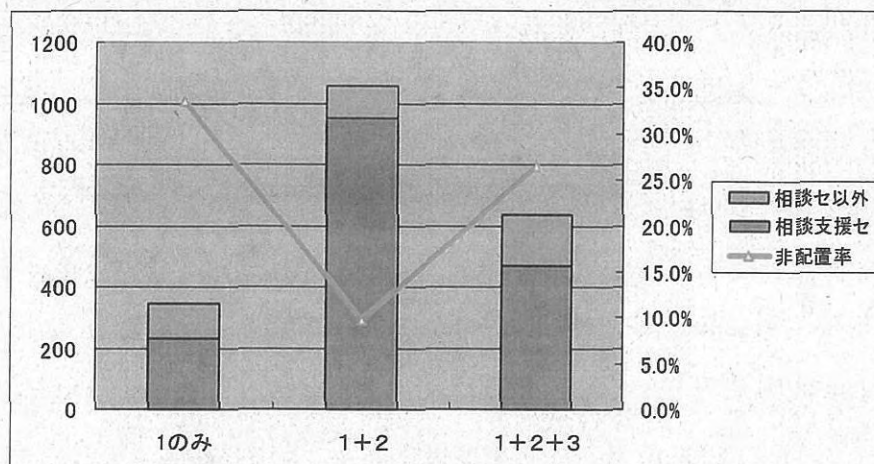
研修修了者数(研修記録より)

基礎研修(1)修了者	2038
基礎研修(2)修了者	1692
基礎研修(3)修了者	635

## 相談支援センターでの配置状況

H21年度現況報告書より

基礎研修(1)修了者	230
基礎研修(1)+(2)修了者	955
基礎研修(1)+(2)+(3)修了者	467



12



## 国立がん研究センターがん対策情報センター 患者・市民パネル「患者・市民が望むがん情報検討会」

- 開催日:2011年02月13日(日)
- 場所:国立がん研究センター築地キャンパス
- 参加者:パネルメンバー54名(北海道から沖縄まで)
- テーマ:「相談支援センターの活用に向けて」
- 相談支援センターの現状の課題、課題の解決に向けた方策について、7~8名でグループディスカッション



13

国立がん研究センターがん対策情報センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

## 現状の課題について(1)

### ● 周知について

- 周知について、拠点病院内であっても患者・医療者ともに「認知がされていない」との意見が複数あがり、ポスター掲示によるPRでは、患者に自分のこととして届かず、利用につながりにくいとの指摘があった。
- 相談支援センターの存在については、拠点病院を受診しなければまったく知る機会がなく、拠点病院以外の患者さんでも利用できることを知る機会は極めて得にくいとの指摘があった。
- 「院内の場所がわかりづらい」との場所の周知の不十分さを指摘する意見が多く、現状では、目的を持って綿密に探さなければその場所を見つけにくいことが多いと思われた。
- 相談支援センターが、「何をしてくれる所かわからない」といった役割に関する指摘も多く、自分に対して何をしてくれるのかが不明確であることから、利用につながらない可能性があると思われた。

14

国立がん研究センターがん対策情報センター  
がん情報サービス ganjoho.jp

## 現状の課題について(2)

### ● 体制について

- 現状の体制について、利用する上で心理的・物理的な敷居の高さを感じている声が多くあげられた。
- その背景には、患者は、たとえ困っていても、自らの心理状態を客観的に認識したり、相談の必要性を見極めたり、相談事項を明確化して整理することにはしばしば困難が伴うことがあると考えられた。
- 相談したいことがあっても、現状の体制の中では相談支援センターに自ら踏み込むことは「話しにくい」「勇気がいる」との声が多かった。
- こういった中で、「何か背中を押してくれるシステム」のニーズが確認されるとともに、さまざまな過程で患者の心理がくじけてしまわないように、敷居を低くしながらも質的にも患者の心理的なニーズにしっかりと応えられる相談体制が必要であると考えられた。

15

がんセンターがん情報サービス ganjoho.jp

## 現状の課題について(3)

### ● 相談支援の内容

- 「相談をしても的確な対応が得られなかった」との意見や、「相談員が患者の心理的なニーズに十分応えられるか」など、質的な課題についての指摘が複数あった。
- 患者が聞きたいことと相談員が答えたいことのギャップについての指摘もあり、多面的な患者のニーズに応えられるように、多職種での協働による相談体制の充実化の必要性などが示された。

### ● 体制面、その他・まとめ

- 地域・施設間による運営状況の違いが大きい
- 運営が受身的であり、患者が必ず利用する仕組みになっていない
- 連携業務は診療報酬につながるが、相談業務は、多くしてもインセンティブにならない

などの指摘があった。

16



## 課題の解決に向けて(1)

### ● 院内周知

- チラシを受診したすべての患者に配布する、医療者から直接患者へ伝えるなどの方法で、すべての患者に相談支援センターの存在を伝える、との提案が多かった。
- チラシについては、スタッフの顔写真を入れる、利用体験談を載せるなど、患者の気持ちにより届きやすい工夫をとる提案があった。
- 医療者向けには、周知の徹底、病院全体でのバックアップ体制の確立や、そのための病院長の意識が重要との意見があった。

### ● 院外周知

- 全国で名称を統一する。
- 全国統一のロゴを公募し、利用する
- TVや新聞などの公共媒体の利用のほかに、行政と協同した地域に根付いたPRの取り組みや(自治体の広報紙、地方紙の利用)、検診会場でのPRが多くあがった。
- 教育現場や出前講座による啓発活動など、より主体的に活動を周知していくことが重要との意見があった。

17

## 課題の解決に向けて(2)

### ● 気軽に相談できる体制づくり

- がん体験者が相談に応じるなどの「ピアサポート」と協働するとの意見が多かった。
- サロンを開設する、院内に支援センターのサテライトを設置する、運営時間を延長する、「開かれているがプライバシーが守られる」環境を確保する、などの提案があった。
- おもな相談内容を提示することで、相談しやすくなるとの意見があった。

### ● 相談の質の向上、その他

- 相談支援センターで得られた情報を現場にフィードバックしたり、得られた情報を集積し、リサーチ機能を持たせることで、医療の現場と患者をつなぐコーディネーターの役割を持たす。
- 相談件数や内容を広報する。  
などの提案があった。

18

# がん情報サービス病院を探す 新規ページ(案)

2. 相談支援の内容について(平成22年9月1日現在)  
※相談支援センターで最も力を注いでいる相談支援の内容について下記に5つあげてください。

相談支援内容	
1	がんの患者さん、ご家族が療養生活を続けていく上で生ずる、経済不安、困難に対する個別具体的な相談や支援。
2	がんの患者さんが利用できる制度的資源(身障手帳、福祉用具、障害年金、労災給付、介護保険等)の案内。(ストマ造設の場合は全例面接を行っています。)
3	がんの患者さんの病期や病状、生活背景に配慮した入院や入所の施設の紹介、転院の助言や実現の支援(緩和ケア病棟や療養型との連絡調整)
4	がん患者さん、ご家族の診療や看護、病状や治療の不安、迷い、疑問等への対応
5	がんの患者さん、ご家族が当院への転院、セカンドオピニオンの希望がある場合の受診の方法、注意、手順についての案内等。

がん情報サービス ganjocho.jp

相談支援センターを地域別一覧から探す

相談支援センター名	問い合わせ先	対応曜日・時間	施設の写真
●北海道がんセンター がん相談支援情報室	札幌市白石区南4条2-3-54 011-811-0118直通	平日:09時30分~17時	
●恵佑会札幌病院 相談支援センター	札幌市白石区本通14丁目北1-1 011-863-2106直通	月~金:08時30分~18時	
●市立札幌病院 がん相談支援室	札幌市中央区北11条西13-1-1 011-726-8101直通	月~金:09時~12時・13時~17時	
●札幌医科大学附属病院 がん相談支援室(患者サービスセンター内)	札幌市中央区南1条西16-291 011-811-2111(011-811-3191)	月~金:08時45分~17時15分	
●札幌厚生病院 がん相談支援センター	札幌市中央区南2条東6-5 011-261-5331(011-2126)	月~金:08時30分~17時	
●札幌市立がんセンター 地域連携・支援センター(西障社会事業推進室内)	札幌市豊平区守山1条6-3-40 011-832-0200直通	月~金:9時~17時	
●手稲区に会病院 がん相談支援室(地域連携推進センター内)	札幌市手稲区前田1条12-1-40 011-685-2904直通	月~金:9時~16時	

↑  
相談支援の内容を提示  
(力を注いでいるもの5つ)  
現況報告書別紙32より

←  
相談支援センターの写真  
現況報告書別紙36より

19

## 相談支援センターの現状と課題:まとめ

がん診療連携拠点病院に相談支援センターが設置されたが、

- 利用数が非常に少ない
- 純粋な相談業務より医療連携業務が重視されている
- 研修の修了者が固定率が低い

↓  
相談スキルが蓄積されていない。

### 対応策

➢ 全国的な広報活動により、認知度を上げ、利用を促進する。

患者必携(ちらし、しおり)の活用

➢ 地域のがん情報拠点としての役割を再認識した上で、適切な体制を維持するための適切な評価を行う。